

第1部

幼児期の子どもをもつ保護者の 学び合いの場づくり編



I 「学び合いの場」とは

1 子育て家庭へのサポートを一層充実するために

家庭を取り巻く環境が変化する中、子育て家庭へのサポートを一層充実させる必要があります。

家庭や家族の変化

- 三世帯世帯の割合の低下
- ひとり親家庭の増加
- 共働き世帯の増加

など



社会の変化

- 都市化
- 就業形態の変化
- 児童虐待相談件数の増加

など



子育てへの不安や負担感、子育て家庭の孤立

- 保護者が祖父母から子育てについて学ぶ機会が少なくなってきました。
- 家庭生活を営むための経験や能力が不足しがちな家庭が増えています。
- 自分の子どもが生まれるまで、赤ちゃんに接する機会をもったことのない人が増えています。

家庭教育に関する学習機会の充実など、
子育て家庭へのサポートの充実が必要です

2 子育て家庭をサポートするための新たな学びの場

子育て家庭をサポートするため、これまで、「保護者の学びの場」、「保護者の相談の場」、「親子一緒に学ぶ場」など、様々な学びの場が提供されてきました。

これまでの学びの場

保護者の学びの場

- 家庭教育講演会
- 子育てセミナーなど

保護者の相談の場

- 面談による相談対応
- 電話等による相談対応



親子一緒に学ぶ場

- 親子料理教室
(農産物の作付・収穫～調理等)
- 図書館まつり
(読み聞かせ、人形劇等)
- 季節の行事
(七夕、クリスマス等)



こうした取組は今後も継続しながら、これからは・・・

保護者が安心して明日からの子育てに臨むことができるよう、地域の身近な方々が、保護者の気持ちに寄り添いながら自らの子育て経験を生かしたアドバイスをしたり、保護者同士が日常生活の様々な場面において交流しながら、子育てについて情報交換をしたり、不安や悩みを相談することができる機会を増やしていくことが必要です。

「学び合いの場」

保護者同士が日常生活の様々な場面において、交流しながら子育てについて情報交換をしたり、不安や悩みを相談することができる場

- 保護者同士の仲間づくりの場
- 子育てについての情報交換の場
- 不安や悩みを語り合える場
- 子育て経験者からのアドバイスや励ましを得る場
- 自分の子育てを振り返る場

Ⅱ 学び合いの促進

1 学び合いの場

(1) 「学び合いの場」となる様々な機会

保護者同士の気軽な雰囲気の中での楽しい学び合いを広げましょう。

日常生活

- ・ 買い物、保育所への送迎、仕事など

子育てサークル

- ・ 体操や創作活動、料理など

子育てサロンや児童館などの親子の居場所、親子で参加する行事など

- ・ 保護者と子どもが自由に集い、他の親子と交流を深める広場など
- ・ バス遠足、おやつづくり、クリスマス会やひなまつり等の季節の行事など
- ・ 読み聞かせ会



地域の行事

- ・ 町内会や商店街の行事
- ・ 地域の祭り

幼稚園や保育所、認定こども園

- ・ 保護者会や入園説明会
- ・ PTAの行事

子育て中の保護者が集う機会

- ・ 家庭教育に関する講座や研修会
- ・ 乳幼児健診や就学時健診、1日体験入学

(2) 学び合いの促進役

地域では、次のような方々により、保護者同士の学び合いを促していただいています。

- ・ 家庭教育支援員
- ・ 民生委員・児童委員
- ・ 子育てサークル役員
- ・ 子育てサポーター、子育てサポーターリーダー
- ・ 家庭教育や子育て支援のボランティア
(退職教員、子育て経験者等)
- ・ 家庭教育ナビゲーター(※) など

※ 「家庭教育ナビゲーターハンドブック」第1部(平成28年4月北海道教育委員会)参照

2 学び合いの促進役の役割と配慮すべきこと

(1) 学び合いの促進役の役割

身近な子育てサポート役として

「学び合いの促進役」には、日常生活のほか、様々な場面において、保護者同士が子育てについて楽しく語り合うことができる雰囲気づくりや子育て経験を踏まえた激励をしながら学び合いを促し、保護者一人一人がこれからの子育てに意欲的に臨むためのサポート役を果たすことが期待されます。

また、保護者をサポートする際には、家庭教育の自主性を十分に尊重することが大切です。

「聞き役」として

保護者との日常的な交流や地域の行事、子育て支援サービスなどをおして、少しずつ保護者との信頼関係が築かれていけば、保護者は、安心して子育てについての愚痴をこぼしたり、不安や悩みを語ったりするようになります。

まずは「聞き役」として保護者の何気ない話に耳を傾け、求めに応じて自分の子育て経験などをもとにアドバイスをすることが大切です。

積極的に子育ての悩みを引き出したり、情報や資料を提供する必要はありません。

「つなぎ役」として

「学び合いの促進役」は、教育や保育、カウンセリングなどの専門家ではありません。

万一深刻な内容について打ち明けられることがあった場合は、道や市町村の相談窓口を紹介したり、行政の担当者を通じて専門的な知識をもつ職員（保健師やスクール・ソーシャルワーカー）や関係機関（児童相談所や保健所、医療機関）へと橋渡しをしたりする「つなぎ役」となることが大切です。



(2) 学び合いの場で配慮すべきこと

個人情報の保護・プライバシーへの配慮

信頼できる関係の中で述べた個人の情報は、外部で話したりすることのないように説明しましょう。



個々の家庭の事情への配慮

ひとり親家庭の保護者もいることに気遣い、父親と母親が協力して子育てを行うことが話合いの前提とならないようにするなど、個々の家庭の事情に配慮しましょう。

学び合いの場でサポートする範囲

保護者が、学び合いの促進役からのアドバイスによって解決することのできる範囲を超えた課題を抱えている場合は、その保護者の意向を尊重しながら市町村の担当者に相談しましょう。

→ 保健師やカウンセラー、児童相談所等の関係機関によるサポートへ

保護者の主体性を尊重するサポート

保護者が自分の子育てについて振り返ったり、不安や悩みを語り合ったりすることによって、保護者の自発性を引き出しましょう。

子育て家庭同士のつながりができるようサポートしましょう。

★家庭教育に関する講座などの場面では★

気軽に参加できる雰囲気づくり

- 飲み物や軽食などを持ち寄るなどして、井戸端会議のように気軽に情報交換をすることができる雰囲気づくりに努めましょう。
- 子どもがぐずったときなどに、いつでも自由に中座できるようにしましょう。

楽しく学び合うための配慮

- 話をすることを望まない保護者に対して、話すことを強要しないようにしましょう。
- 特定の人が話し過ぎないようにコントロールしましょう。
- 進行係が示したテーマから、話の流れがそれでも、無理に修正せず、楽しく活発に情報交換をしていることを大事にしましょう。

Ⅲ 講座等での学び合いの場の展開

1 学び合いの場の展開例

対 象	乳幼児の子どもをもつ保護者
場 所	地域子育て支援拠点（子育て支援センター、子育てひろば、児童館）
時 間	40分

時間	学び合いの流れ
5分	<p>【個々が参加できる場づくり】</p> <ul style="list-style-type: none">○ 参加者の人数が多い時にでも全員が数回発言できるように、グループ分けをする必要があるかどうか、判断しましょう。 <p>【話題の投げかけ】</p> <ul style="list-style-type: none">○ 皆さん、今日は「□□」について、情報交換していただきたいと思います。○ 日常の子育ての様子や苦労していることなどについて質問しながら、フリートークに移行しましょう。
30分	<p>【フリートーク】</p> <ul style="list-style-type: none">○ 提示した話題からそれでも、参加者の合意のもとで意欲的に情報交換が行われていれば、促進役がコントロールする必要はありません。
5分	<p>【参加者への励まし】</p> <ul style="list-style-type: none">○ フリートークの中で出されたお話を紹介しましょう。○ 全体の前で話したいと考えている参加者がいたら、発言の機会を与えましょう。○ 保護者個々の思いを共有できるよう、フリートークの時間を振り返ってみましょう。<ul style="list-style-type: none">・ どの家庭も同じような悩みや不安を抱えていること・ どの保護者も子育てのストレスを抱えていること・ 百点満点の保護者はいないこと○ その日の話題に合わせて激励の言葉を添え、学び合いの時間を終わらしましょう。

2 学び合いの場づくりのための話題の投げかけ

(1) しつけや生活習慣

ア 話題例

- 就寝・起床時間（子どもの就寝・起床時間、寝つきが悪いときの対策など）
- 歯みがき（歯みがきの習慣の付け方、上手な歯みがきの方法など）
- 食べ物の好き嫌い（子どもの嫌う食べ物、好き嫌いの克服法など）
- くせ（爪かみ、おしゃぶりなど）

イ 話題の投げかけ方と情報交換の展開イメージ

【話題】 子どもを寝かしつけることに苦労をしていませんか？

発言者	情報交換の展開イメージ
保護者	家事が一段落したところにはクタクタになっていて、寝かしつけるときに私が先に眠ってしまったわ。
進行係	そうですね。
保護者	お話しをすると子どもが喜ぶんだけど、毎日するのは結構大変だわ。
進行係	これをして寝る準備、って言うことがあればいいですよ。でも、毎日読み聞かせをするの、大変ですよ。
保護者	親と一緒に夜遅くまでテレビを見るのが習慣になってしまったわ。
進行係	つい甘くなってしまうこともありますよね。
保護者	そろそろ寝かしつけを卒業させたいんだけど。
進行係	子どもが大人になる頃には、幼い我が子との触れ合いが懐かしく思えてくるものです。寝かし付けは、今しかできないことです。



(2) 電子メディア

ア 話題例

- 電子メディアの種類（スマートフォン・携帯電話、タブレット端末、パソコン、ゲーム機、テレビ、ビデオ、DVDなど）
- 子育てをサポートするアプリの種類（授乳や成長の記録、健康管理、お絵かき、動物への給餌、リズム遊びなど）
- 電子メディアの使わせ方（どんな時に、どのようになど）

イ 話題の投げかけ方と情報交換の展開イメージ

【話題】 スマホやタブレットを子育てに活用していますか？

発言者	情報交換の展開イメージ
保護者	うちの子は、いつも動物を育てたり、着せ替えをしたりするアプリで遊んでいるわ。
進行係	スマホを使って、泣き止ませたり、子守してもらったりすることありますか？
保護者	子どもが英語や漢字を覚えるいいアプリがたくさんあるわ。
進行係	そうなんですか。タブレットでゲームをすることはありますか。
保護者	2歳の娘は、毎日しています。タブレットでゲームをしているときには、家事に集中できていいわ。よくないっていうことは、分かっているんだけど。
進行係	そうですね。私が息子の子育てしていた頃は、テレビゲームが子守をしていたこともありました。
保護者	自分がSNSに夢中になって、赤ちゃんをほったらかしにしちゃったことがあったわ。
進行係	悪いと分かっているけど、してしまうことがありますよね。区切りを付けるために、何かいい方法はありますか。

※「スマホ」：スマートフォン、「タブレット」：タブレット端末



(3) 様々な体験

ア 話題例

- お手伝い(簡単な調理、箸を並べる、タオルなど簡単なものを畳む、お花の水やりなど)
- 家庭外での体験(外遊び、キャンプや釣り、地域行事などを通した様々な体験)

イ 話題の投げかけ方と情報交換の展開イメージ

【話題】 お手伝いや遊びをとおして、体験をさせていますか？

発言者	情報交換の展開イメージ
保護者	お手伝いをさせながら、家事を経験させることが大切なのは分かっているんだけど、ついあれこれと口を出してしまうわ。自分でやってしまった方が早いし。
進行係	子どもに何かをやらせるには、保護者も辛抱が必要ですね。
保護者	子どもは虫に触れたりすることが大好きなんだけど、私が嫌いだから、「触っちゃだめ」って言うってしまう。
進行係	お子さんの好きな遊びは何ですか。お子さんはどんなことに興味をもっていますか。



(4) 子育てのストレス

ア 話題例

- ストレスの要素（言うことをきかない、思い通りにならない、育児書の記述が気になる、自分の時間がない、家事が回らない、パートナーが理解してくれないなど）
- 発散の方法（相談相手をもつ、一人の時間をつくる、過度に期待しないようにするなど）
- 話を聞いてくれる人（実母、友人、身近な子育ての先輩など）

イ 話題の投げかけ方と情報交換の展開イメージ

【話題】誰でも多かれ少なかれストレスを抱えていると思いますが、上手に発散できていますか？

発言者	情報交換の展開イメージ
保護者	何をするにも嫌がり、言うことを聞かないので、毎日へとへとになっているわ。
進行係	余計にイライラして口うるさくなりますよね
保護者	義母のアドバイスは参考になることもあるけど、ちょっとうっとうしいわ。
進行係	やはり、実母から言われる方が受け入れ易いですよね。ほかに、気楽に話せる相手はいますか？
保護者	同級生と長電話して、愚痴をこぼし合っているわ。
保護者	2人目の子には、あれこれをしなければ、とあまり考えずに、ほったらかしにしているわ。
進行係	そうですね、二人目は手がかからない、手をかけないっていいですよ。でも一人目のお子さんのときは、どのお母さんも大変だったでしょう。